

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	聖隷こども発達支援センター和合（聖隷こども発達支援センターかるみあ和合）		
○保護者評価実施期間	2025年9月10日		～ 2025年9月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	2025年9月1日		～ 2025年9月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	2025年9月1日		～ 2025年9月25日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	2校・9園 計11施設	(回答数) 2校・9園 計11施設
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援員の知識・技術に基づく助言と質問への適切な対応	訪問時にはこどもの状況や現場の課題を踏まえながら、専門職の視点を活かし、根拠に基づいた助言や説明を行うことを意識している。	計画的な研修にて専門性の向上を図るとともに、支援の意図を分かりやすく伝える。
2	保護者・訪問先施設との信頼関係を基盤とした連携体制	日頃から相談しやすい雰囲気づくりや、丁寧な対応を心がけている。また、訪問後の報告や情報共有を重視し、関係者と共通理解を図りながら支援を進めている。	訪問前後の情報共有や意見交換の機会を設け、双方向のコミュニケーションを充実させるとともに、連携事例の共有を通して関係機関との協働の質向上に取り組む。
3	支援計画に基づく一貫した支援と関係機関との連携体制	支援計画の作成・見直しについては児童発達支援事業所とも共通理解を図りながら進めている。また、ケースカンファレンス等を通して多職種視点を取り入れている。	児童発達支援事業所との情報共有のタイミングを仕組化する。また、支援の方向性を合わせ、役割分担し効果的に支援を進めていけるよう努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先施設の実情に応じた支援提案のさらなる充実	限られた訪問時間の中で、園や学校ごとの運営体制や環境の違いを十分に把握することが難しい場合がある。	訪問先施設の体制や環境、支援方針等を把握する機会を設け、園や学校への理解を深める。また、集団場面で実践しやすい支援方法や環境調整に関する職員研修の充実を図り、訪問支援員全体の提案力の向上につなげる。
2	安全管理・緊急時対応に関する周知不足	安全管理や緊急時対応に関する体制は整備しているものの、日常的な説明や定期的な周知の機会が十分に確保できておらず、保護者にとって内容が分かりにくいものとなっていた。	安全管理体制や緊急時対応フローについて、契約時に説明の機会を設けるとともに、文書や資料を用いた分かりやすい周知を行い、安心して利用いただける環境づくりに努めていく。
3	事業内容や取組状況に関する情報発信の不足	日常的な連絡はコドモン(情報共有アプリ)の活用によって昨年度より活用が進み改善されたものの、訪問支援に使用する教材教具に関することややその他事業の必要事項について情報発信が十分でなかった。	訪問支援で使用した教材教具は、訪問後、都度報告する。又、事業内容や安全への取り組み等の周知については、コドモン(情報共有アプリ)を有効に活用する。